

岐阜県福祉サービス第三者評価事業評価結果表

平成 30 年 2 月 27 日改正
(平成 30 年 4 月 1 日適用)

①第三者評価機関名

NPO法人ナルク岐阜福祉調査センター

②施設・事業所情報

名称：岐阜市立長森南保育所	種別：保育所
代表者氏名：森島 美幸	定員（利用人数）： 70名（88名）
所在地：岐阜市蔵前 4 丁目 3-15	
TEL：058-245-2647	ホームページ：http://www.city.gifu.lg.jp/5827.htm
【施設・事業所の概要】	
開設年月日昭和 28 年 5 月 1 日	
経営法人・設置主体（法人名等）：岐阜市	
職員数	常勤職員： 12 名 非常勤職員 11 名
専門職員	保育士 18 名
	看護師 1 名
施設・設備 の概要	保育室 5 室 遊戯室 1 室 (設備等) プール
	調理室 1 室 事務室 1 室 大型総合遊具 3 連鉄棒 砂場

③理念・基本方針（※転載）

<p>理念</p> <ul style="list-style-type: none"> *子どもの最善の利益を保障します 可能性に満ちたすべての乳幼児の幸せのために、子どもの主体性を尊重し、一人一人の人権を守ります。 *子どもにとって最もふさわしい生活の場を保障します。 すべての子どもが安心できる環境の中で、遊びを通して学びの芽を育みます。職員は専門性や人間性を発揮し愛情と信頼に満ちた環境の中で子どもの自己肯定感を育み、養護と教育が一体した質の高い保育に努めます。 *家庭の支援や地域における支援を積極的に進めます。 保育所に入所している子どもの保護者と共に成長の喜びを共有し子育てを支えていきます。地域の子育て家庭の支援にも努めます。 <p>基本方針</p> <ul style="list-style-type: none"> *生涯にわたる生きる力を培うための保育目標として 「自分のことを自分でする力」、「人とかかわる力」、「身近なものや出来事とかかわる力」をかかげ、子ども一人一人を大切に丁寧な関わりを通し「あれは、何だろう」「やってみた

いな」と自ら学ぼうとする子どもが育つよう日々の保育を実践します。

④施設・事業所の特徴的な取組（※評価機関において記入）

○立地・環境

- ・長森南保育所は岐阜市の南東部の長森地区にある。さらに長森地区を東・西・南・北に区分すれば施設は最南端に位置し、土地は概ね平坦で、東は各務原市、南は岐南町に接している。
- ・JR 高山線長森駅、名鉄各務原線手力駅にも近く公共交通の利便性が高い。すぐ北には昔の中山道、火祭りで有名な手力雄神社があり、長森南小学校とは隣接した静かな住宅街にある。
- ・昭和 28 年 4 月に定員 100 名で開所し、昭和 63 年 4 月、現在の新園舎が完成時から未満児（1・2 歳）保育も開始した。平成 26 年 3 月園舎の増築（1 歳児保育室完成）に伴い、平成 26 年 6 月からは 0 歳児（57 日～）保育を開設した。現在定員は 110 名であるが、0 歳児から 5 歳児までの子ども 85 名が元気に通所している。
- ・鉄筋コンクリート造り二階建ての園舎は、玄関を入ると広いホールが目に入る。1 階、2 階ともこのホールを取り囲むように保育室が配置され、1 階は未満児室、2 階は以上児室、遊戯室（ただし、5 歳児は遊戯室利用）となっている。1 階のホールは、雨天時には朝の体操の場となっている。また、晴天の時、以上児の持ち物（ヘルメットを含む）は、いったんホールに置き、園庭での朝の体操が終わると、ヘルメットをかぶり、それぞれの保育室へ一斉に移動している。即ち、非常時だけでなく、毎日の生活の中にヘルメットの着用が取り入れられている。
- ・園庭遊びの後の水分補給は各保育室ではなく、2 階のホールで行われている。ホールに給水テーブルを置き、保育士はどのクラスの子どもたちにもカップにお茶を注ぎ飲ませている。
- ・子どもたちは、洗面所へ行く時、階段を上り下りする時は、必ずこのホールを横切ることになり、3 歳児、4 歳児、5 歳児のそれぞれの保育室の様子がよくわかり、異年齢交流の場としても、ホールは良く機能している。

○園庭

- ・園庭は、年長児がかけっこをするには、やや狭い感じであるが、子どもたちは存分に走り回っていた。運動会には保護者の参観もあり狭いので、お隣の長森南小学校の体育館を借用して行われている。1・2 歳児用の砂場は広く、砂場にかかる藤棚は年を経て、太い幹を持った古木となり、季節には満開の花がふくよかな香りを漂わせる風情とのことであった。次年度には駐車場の増設計画の余波で、砂場の変更が検討されており、せっかくの古木の行方も懸念される場所である。

○廃材を利用したおもちゃ作り（5 歳児の遊び）

- ・子どもたちは、毎日少しずつ家庭からでるあらゆる廃材（牛乳パック、大・中・小の空き箱、ペットボトル、ボトルのキャップ、ヤクルト、ヨーグルト、包装紙、紙コップ、発砲スチロール、サンラップの芯、洗濯ばさみ等々）を持ち寄って沢山集めた。工作用具としては、ハサミ、ガムテープ等が別に用意されていた。正面の机いっぱいに廃材を広げ、これらの廃材の中から、子どもたちは好みの物を、いっぱい抱え込んで、自分の机の上に置いて作業開始された。ハサミで切ったり、ガムテープでつないだりすること 1 時間。17 人の児童は、17 種類のおもちゃを仕上げた。飛行機、水族館、マイホーム、オレンジジュース等々。児童は大人が想像もできないことを想像し、それを形にする力を身に付けていく姿を見学することができた。

○さまざまな楽器で遊ぼう（4歳児の遊び）

・シンバル、トライアングル、カスタネット、ボンゴ、木魚、マラカス、ウッドブロック、タンバリン、鈴、等々。さまざまな楽器が並べられる。児童は先ず、好みの楽器を選ぶ。先生の指揮に合わせ、打ち鳴らす。2拍子、3拍子、もっと複雑な拍子、早いテンポ、スローテンポ、全員で、今度は一人一人が音を出す。音がきれいに揃った時の喜びを体感しているようであった。今度は楽器を交換した。楽器を交換する時、1個しかない楽器には、じゃんけんで決めていた。音を合わせられない仲間を見守るという、協調の姿勢も見受けられた。わずかな時間なのに児童の上達は早かった。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	平成30年6月19日（契約日）～ 平成31年2月20日（評価結果確定日）
受審回数(前回の受審時期)	1回（平成24年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

- ・本調査に先立ち、保護者満足度アンケートを実施した。寄せられたアンケートの集計では、保護者の保育所に対する満足度、信頼度は非常に高かった。保護者は全面的に、先生方を信頼して子ども預けていることを窺うことができた。
- ・以上児（3歳・4歳・5歳）の3保育室は、広いホールに面しており、ホールが子どもたちの交流の場になっている。全員がホールで水分補給をするなど、異年齢児と関わりが日々の生活の中にあり、小さい子は大きい子を頼り、大きい子は優しく関わる姿が見受けられた。年長さんは午睡後の着替えの手伝いをしたり、みんなでする「お店屋さんごっこ」はみんなの大好きな遊びの一つである。
- ・年長児は4グループ（1グループ3人～4人）に分け「パトロール係」、「牛乳パック係」、「おせわ係」、「給食・そうきん・ごみあつめ係」を当番制で決めている。給食当番係は、食事のマナー、その日の給食の野菜、3つの栄養分類などを、保育士の指導を受けて確かめながら、時間をかけて丁寧に説明し、当番の合図でお行儀よく食べていた。おかわりも自由にできるようであった。
- ・JAぎふ、地域のボランティアの協力により、園庭の片隅で、野菜の栽培をしている。苗植え、種まき、収穫、水やり、草取り等を計画的に行い、栽培した野菜は給食の食材となり、クッキング、家庭での食材にも利用されていた。
- ・避難訓練の時にだけヘルメットを着用するのではなく、毎日の生活の中にヘルメットの着用が習慣づけされていた。

◇改善を求められる点

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

第三者評価を受審し、職員間で保育内容・マニュアル・環境等を一つ一つ見直したことで、保育所の良い点・問題点等が明確になり、話し合いを繰り返し全職員で協力し改善に努めてきました。そのことで保育士の質の向上・意識を高く持って保育に臨むことに繋がってきたと感じます。また、地域・保護者に支えられていることや連携の大切さを実感しました。今後も、評価結果に基づき更なる改善に向けて取り組むと共に、保育所・保育士の自己評価を行い職員のスキルアップに繋げ、子どもの発達を保障し最善の利益に繋がる保育を実施していきたいと思えます。

⑧第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。